

# 浅草寺病院だより

2021年  
【春号】

2021年4月10日発行  
社会福祉法人浅草寺病院  
東京都台東区浅草2-30-17  
☎ 03-3841-3330

## 理念

観音さまの大慈悲のみこころにそって、  
思いやりの精神のもとにあたためた医療を提供します。



## いまだ終息しないコロナ禍にあたって思うこと

副院長 中山 智子

コロナウイルス感染症が中国で発生し、死に至る肺炎を起こす非常に危険な感染症として認知され、渡航者を介して世界に感染者が徐々に広がり始めた2020年2月。日本ではまだオリンピック開催ムードに包まれていました。今や東京のみならず「日本の顔」となった観光都市浅草も、様々な国からの観光客であふれかえっていました。

その後国内での感染者が確認され増加し、渡航が禁じられたあとの浅草の町は一変しました。海外渡航受け入れが禁止され、非常事態宣言の発令後、ごった返していた浅草の町から人が消えました。当初は緊張感や恐れもありながら、少し我慢すれば何とかかなと思っていた状況(思っていたというよりは思いたい、という気持であったと思います)が、世界の情勢を見聞きするにつれ、ただ事ではない大変な事態であることを知ることとなりました。長い、我慢の始まりでした。

病院においては、3月に感染者が出たことから一時的な病院診療中止(10日間)の経験をしました。この際に、地域の病院である当院の役割を改めて認識し、今後決して診療を停止しないように継続していくことを最大目標として、病院の感染対策を講じてまいりました。あれから一年がたちます。今に至っても院内感染に至ることなく、診療を継続させていただいています。職員個々の意識と協力の賜物であると感じています。

一年経ち、人々の暮らし方や働き方が大きく様変わりしました。リモートでの仕事も可能になっているかもしれませんが、それはあくまで「また前のような暮らし、働きかた」に戻るから、のものであると思います。しかし特効薬が見つからず、変異株などの出現でまたいつ終息するのかと不安を抱えている方も多いと思います。

過去の長い歴史から見ても、感染症は必ず終息します。しかしその対処方法には医療、研究の進歩が加わっても実はあまり大きな差異はないのかもしれないとも思います。

天台宗に、「忘己利他」という教えがあります。己を忘れて、他を利するは慈悲の極みなり、という意味です。私が大変尊敬しておりました、浅草寺前貫主清水谷孝尚大僧正にお教えいただきました。まさに医療者がコロナ禍に実践すべき態度であると思います。科学的なことだけではなく、このような精神を持ち合わせて医療に当たることがよりよい道につながるのではないかと信じております。

これからワクチン接種も始まります。当院も地域の皆様のご健康を守るため、精いっぱい努力をしていきたいと考えております。

最近私の外来に 80 代の女性が、「定期健康診断で、心臓に雑音がある、大動脈弁狭窄症が疑われる、と言われて心配だ」と受診してきました。

大動脈弁狭窄症(以下 AS)は長寿社会になって増えてきた疾患です。大動脈弁は心臓の出口にある弁で、加齢とともに固く狭くなることが病気の本態です。これに対して心臓は開きにくくなった弁をこじ開けて血液を全身に送り出します。心臓がこの負担に耐えられなくなると「動悸」「息切れ」「胸痛」などの症状が出てきます。更に病気が進み体中に十分な血液を送り出せなくなると「気が遠くなる感じ」「失神」が起きます。

AS は進行性の疾患です。症状が始まると予後は2~4年といわれ怖い病気です。しかし弁が狭くなり始めてから症状が出るまでには何年もかかります。この段階に定期健康診断などで、「心雑音」として発見することができます。病気の進行の度合いは心エコーで分かります。これは苦痛を伴わない楽な検査です。AS は大変な疾患ですが、症状の軽い時期に、手術<sup>※1</sup> や、手術の必要のない TAVI<sup>※2</sup> という治療法で弁の狭窄を取り除くと予後が改善されます。

高齢になって心臓の処置を受けるのはこわい、と腰が引けると思います。しかし放置すると不整脈などで突然死をするリスクが高まります。最近この領域の治療技術が著しく進歩しました。以前は年齢が高く無理と判定されていた人も治療する事が出来、救われるようになりました。皆さん、進んで定期健診を受けてください。

※1 大動脈弁置換術(手術により人工弁に置き換える治療法)

※2 TAVI 経カテーテル大動脈弁移植術(カテーテルを用いて大動脈弁移植をする治療法)

## MRIによる認知症検査について

放射線科

当院では MRI 装置による認知症検査を行っています。MRI 装置とは磁石と電波を用いて、体の中を調べ画像化する装置です。レントゲンや CT 装置とは異なり、放射線を使わないので被曝の心配もありません。検査時間は内容により異なりますが、20 分から 40 分程度かかります。脳梗塞、脳動脈瘤、椎間板ヘルニア、圧迫骨折などさまざまな疾患に有効な検査が可能です。特に、頭部 MRI 検査では VSRAD(早期アルツハイマー型認知症診断支援システム)という検査で脳の萎縮度を調べ、認知症の評価をすることが可能です。MRI で認知症の診断支援ができると、早い段階で治療を行うことができるので認知症の進行を遅らせることが可能となります。近年、認知症を患っている人は 65 歳以上で 7 人に 1 人と推定されています。高齢になるほど認知症になる確率は上がっていきます。認知症に対処するために 65 歳を迎えた方は一度当院の MRI で VSRAD 検査を受けてみてはいかがでしょうか。

